

ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 235



*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の () の数字は請求記号です。)

「ぶらりらいぶらりい」バックナンバーを公開しています！

図書室で配布している「ぶらりらいぶらりい」のバックナンバーを、昭和館ホームページで順次、公開しています。創刊号(No.1)から、毎月10号ずつを公開予定です。

① 昭和館トップページの「ピックアップ」、または「図書室(4F)」ページの2か所から入れます。

「ぶらりらい
ぶらりい」
バックナンバー
公開中」を
クリック！



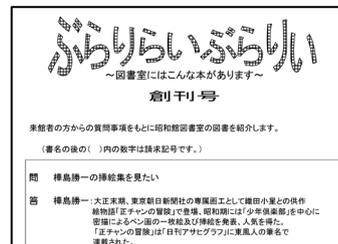
「このような資料が
あります！」を
クリック！



② 各号のテーマを見て、読みたい号をクリックします。



③ データはPDFで開きます。
おもて面とうら面の両面が読めます。



図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

ヘレン・ケラーの来日

ヘレン・ケラーを知っていますか。ヘレン・ケラー (Helen Addams Keller 1880年～1968年) はアメリカで生まれ、生後すぐに熱病のため視力と聴力を失いました。そして、家庭教師サリバン先生の献身的な指導によって見えない、聞こえない、話すことが困難という「三重苦」を克服しました。ヘレンは戦中・戦後を通して3度にわたって来日し、日本の障害者福祉の発展に重要な影響を与えました。

1回目の訪問は、昭和12年(1937)4月15日に浅間丸で横浜港に入港しました。前年にサリバン先生を亡くし、ヘレン56歳の時でした。3ヶ月にわたり滞在し、北海道から熊本県までの障害児学校を訪れ、児童・生徒、卒業生、教職員などと親密に交わり語りかけました。また、各地で一般市民に向けて講演し、障害者福祉の大切さと必要性を訴えました。その様子は新聞で「奇蹟^{きせき}の聖母来る」と大きく報道されました。

2回目は昭和23年(1948)8月29日、連合国軍最高司令官のダグラス・マッカーサーの賓客として来日し、2ヶ月滞在しました。北海道から長崎県まで全国15都市を訪問し、障害者の自立支援について精力的に活動しました。9月4日には皇居前広場において「ヘレン・ケラー女子歓迎国民大会」が開催され、集まった都内の小中高生約2万人は、来日を祝って作られた「幸福の青い鳥」を東京都吹奏楽団の伴奏で大合唱しました。ヘレンが帰国した翌年の24年には、身体障害者の自立と社会経済活動への参加を支援する「身体障害者福祉法」が公布されました。

3回目は昭和30年(1955)5月27日、世界各国を巡った帰途に来日しました。ヘレンの日本訪問に尽力し、通訳も務めた岩崎武夫の遺影に花を手向けるためでした。東京・大阪・京都で講演しました。

※5階映像音響室ではヘレンが2回目に来日した時のニュース映画をPC端末で見ることができます。

《参考文献》

『太平洋戦争下の全国の障害児学校』(378.02/Sh49 開架一般)

『ヘレン・ケラー書簡集』(289/Ke32 閉架一般)

『歴史感動物語 10』(280/G16/1 閉架一般)

『朝日新聞に見る日本の歩み 昭和12年～14年』(210.6//A82/1937-39 閉架一般)

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 235

2020年7月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1